

「広島を訪れて」

3年 M.M

一九四五年八月六日八時十五分、広島に原爆が投下されました。知らない人はほとんどいないと思います。しかし被爆されたのは日本人だけと思っている人は少なくないでしょう。私も今までそう思っていました。

私はこの夏休み、YWCA主催の「ひろしまを考える旅」に参加しました。なかなか広島へ行く機会がないと思い参加を決めました。

一日目は開会式が終わったあと平和記念資料館の見学でした。あまり行きたいという気持ちはありませんでしたが、YWCAの方が昔と比べて残酷なものが減ったと言っていたのでそこまで怖い展示物はないだろうと思っていました。しかし行ってみると胸が痛くなるような展示物が多くあり、怖い物を見たくなくて現実から逃げていた自分の考えが甘かったと情けなく思いました。展示物の中で一番印象に残っているのは焼けた服を同じくらいの背丈の針金に着せているものです。それは私達よりもずっと小さく小柄で本当に老若男女問わず被爆されたのだと実感しました。被爆したことでの後遺症の写真やその皮膚が展示されていて本当に見ていて辛かったです。途中までは友達と会話する余裕がありましたがあまりの衝撃に終わるまで言葉をかわす事はありませんでした。悲惨な現実を突き付けられ外はまだ明るいのに私の心は真逆の闇のような気持ちでした。とても気持ちの重くなるような一日でした。

二日目はグループごとに分かれ行動しました。私は「韓国、朝鮮人の歩み」というコースを選びました。このコースには中一から大人の方、韓国の方まで幅広い方々がいらっしゃいました。実際に被爆された在日韓国人の金さんにお話を聞くことができました。金さんは笑顔が素敵で終始微笑みながらお話をしてくださいましたが最後は涙を浮かべていました。こうして私達の為に話して下さることは貴重でありがたいことだとその涙を見て感じました。お話の中には初めて聞くことばかりでした。例えば、日本に植民地支配され半強制的に広島に連れてこられ言語や習慣のこと等でひどい差別を受けていた中で被爆されたこと、運良く生き残っても手当を受けることができなかつたり母国に帰らせてもらえなかつたり母国に帰ることができても周りに理解してもらえなかつたりと日本人としては言い方が悪いかもしれませんが日本人以上に苦しく辛い思いをしていたのだと分かりました。日本は被害者である一方加害者でもあるという認識をその時初めて持ちました。また今、私達がお話を聞いているこの辺りも大きな被害があったと聞き、外に出た時思わず空を見てこうして何も無い空が一瞬にして黒く光り黒い雨が降り、熱線を浴びて多くの方が亡くなったと思うととても怖くなりました。夜は平和記念公園に行きました。原爆ドームから噴水まで一直線になっていて、その道を平和の道と言うのは初めて知りました。またその間にある平和の灯はどんな日でも消えることなく燃え続けています。普通はオリンピックの聖火のように消えないようにするものですが平和の灯は世界から核兵器が一つも存在しなくなったら消すことになっているそうです。だから一日でも早くその火を消さな

い限り平和にはなれないと思いました。韓国人で翻訳をされていた方が「平和は持続するのではなく毎日昨日よりも平和へと変えていくものだ」とおっしゃっていました。その通りだと思います。私の心にささりました。そして初めてみた原爆ドームはテレビで見た以上に悲惨さを物語っていました。実際に見るとあまりの衝撃に言葉が出ませんでした。

今回私はあえて日本以外の事についてのコースを選びました。理由はメディアはほとんど日本の事しか報道しませんし教科書も日本の事が多かったので日本だけが唯一の被爆国だと思っていました。しかし国として見たら日本だけではありますが人として見たら日本人以外の国の方々も被爆者です。また日本は加害者でもあるという点についても日本人のしたことを知っておくべきだと思いますこのコースを選びました。この旅を通して考えた事はテレビだけの世界で終わらずに自分の目で確かめることが大切だという事。そしてそれに対して自分なりの考えを周りに、そして次の世代に発信していくべきだと思います。私達がすべきことは戦争ができる国になりつつある日本を止めることです。何も知らないのでは阻止することはできません。先ほども述べたように何があったのか正しいことを知ることが第一歩だと思います。